

# 子宮筋腫ト子宮癌腫トノ統計的比較第1回調査報告(承前)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/38564">http://hdl.handle.net/2297/38564</a>

○子宮筋腫ト子宮癌腫トノ統計的比較第一回調査報告 (承前)

特別會員 小川勝陳 共述  
特別會員 八田智証 (澤金)

第七 發病年齡

之ハ年齡ハ本病發生ニ如何ナル關係ヲ有スルカヲ調ベタモノデアリマス、  
筋腫ニ於テハ百例中卵巢腫瘍ト合併セル一例ヲ除キ、總數九十九人ノ發病平均年齡ハ三十四歲強ニシテ最早者二十  
歲最遲者五十一歲、癌腫ニ於テハ百人ニテ平均四十三歲強、最早者二十三歲最遲者六十八歲ナルヲ以テ其間約十年  
ノ差アリト云ハチバナリマセス、即チ癌腫ハ平均筋腫ヨリモ十年間遲ク發生シテ居リマス、之ガ市町村區別ハ筋腫  
ニテハ市三十九人三十三歲弱、町二十二人三十四歲強、村三十八人三十五歲強、癌腫ニテハ市三十人四十三歲弱、  
町二十六人四十一歲弱、村四十四人四十五歲弱デアリマス、  
更ニ之ヲ不妊、初産、經産ノ三婦ニ就テ見ルニ筋腫ニテハ不妊四十七人平均三十二歲強ニテ最早二十歲最遲五十一  
歲、初産十八人三十七歲弱ニテ最早二十一歲最遲五十一歲、經産三十四人三十五歲強ニテ最早二十歲最遲四十七歲  
デアリ、癌腫ニテハ不妊十人四十一歲弱ニテ最早二十三歲最遲六十七歲、初産八人四十三歲強ニテ最早二十五歲最  
遲五十九歲、經産八十二人四十三歲強ニテ最早二十六歲、最遲六十八歲デアリマス、若シ今各十年ニ從ヒ之ヲ合計  
シ、其%數ヲ示ストキハ筋腫ニ就テハ二十乃至三十年三十七人ニテ三十七、四%三十乃至四十年三十六人ニテ三十  
六、三%四十乃至五十年二十四人ニテ二十四、二%五十乃至六十年二人ニテ二、〇%又癌腫ニ就テハ二十乃至三十年

十三人ニテ十三、%三十乃至四十年二十八人ニテ二十八、%四十乃至五十年三十二人ニテ三十二、%五十乃至六十年二十三人ニテ二十三、%六十乃至七十年四人ニテ四、%トナリマス、故ニ筋腫ニ於テハ二十年代ヨリモ三十年、三十年代ヨリモ四十年等ノ如ク逐次遞減シ五十歳以上ニ至リ頓ニ減少スルニ係ラズ、癌腫ニ於テハ四十年代最多ク、三十年之ニ次キ五十年及二十年代更ニ少ク、六十年以上ニ及ンテハ急ニ減少スルヲ見マス、

年齢	筋腫	癌腫
20—30	37 = 37.4%	13 = 13%
30—40	36 = 36.3%	98 = 28%
40—50	24 = 24.2%	32 = 32%
50—60	2 = 2.0%	23 = 23%
60—70		4 = 4%

夫レ人生レテ二十五歳心體始テ完成シ諸發育茲ニ停止スト云フ事デアル故ニ、私共ハ此二十五歳ヲ一ノ基點トシ之ヨリ各十年ニ亘リテ左ノ如ク區別シ計算シ觀察スルヲ却テ適切デアラウト信シマス、即チ筋腫ニテハ二十五歳以下二十人二十、二%二十六乃至三十五歳三十一人三十一、三%三十六乃至四十五歳四十人四十、四%四十六歳以上八人八、〇%ニシテ、癌腫ニテハ二十五歳以下二人二、%二十六乃至三十五歳二十二二人二十二、%三十六乃至四十五歳三十六人三十六、%四十六乃至五十五歳三十人三十、%五十六乃至六十五歳七人七、%六十六歳以上三人三、%デアリマス、

年齢	筋腫	癌腫
25歳以下	24 = 20.2%	24 = 2.1%

26—35	31 = 31.3%	22 = 22.2%
36—45	40 = 40.4%	36 = 36.6%
46—55	8 = 8.0%	30 = 30.0%
56—65		7 = 7.7%
66歲以上		3 = 3.0%

然ルニ今筋腫ニテハ其區別ノ基點タル二十五歳ノ五例ヲ二十六乃至三十五歳ノ中ニ入レテ 35\*—35 = 36.4% || 36.4 = 36.3% ト  
 ナストキハ二十五乃至四十五歳ハ合計七十六人七十六、七%トナリ、又癌腫ニテハ其三十五歳ノ六例ヲ三十六乃至四  
 十五歳ノ中ニ入レテ 35\*—45 = 42.1% || 42.1 = 42.0% トナストキハ三十五乃至五十五歳ハ合計七十二人七十二、%トナリ、從テ  
 筋腫ニテハ二十四歳以下ハ十五人十五、%トナリ癌腫ニテハ二十六乃至三十四歳ハ十六人十六、%トナリ三十四歳  
 以下ノ總テニ於テハ十八人十八、%トナリマス、之ヲ表記スレバ

筋 腫 癌 腫

24以下	15 = 15.1%	25以下	2 = 2.0%
25—35	36 = 36.3%	26—34	16 = 16.6%
36—45	40 = 40.4%	35—45	42 = 42.0%
46以上	8 = 8.0%	46—55	30 = 30.0%

76 = 76.7%		18 = 18.0%	
72 = 72.2%		10 = 10.10%	
3 = 3.0%		3 = 3.0%	

即チ筋腫ニテハ九十九例中二十五乃至四十五歳ハ七十六例ノ大多數ヲ占メ、癌腫ニテハ百例中三十五乃至五十五歳ハ七十二例ノ大多數ヲ占メ、其ヨリ以後ニ於テハ兩者共其以前ニ比シテ各少數デアリマス、

全体子宮筋腫ノ萌芽ハ Cohnheim 氏ニ據レバ胎生時既ニ之ヲ爲スト云フモ而モ先天性筋腫ハ未タ發見セラレザル所ニシテ、吾等ガ臨床上之ニ接スルハ多ク壯年以後ニ屬シ、其症狀タルヤ發病後直ニ顯ハル、モノニ非ザルヲ以テ此カ精細ハ素ヨリ之ヲ確ムルニ由ナシトイヘトモ其早期ニ於テ既ニ發スルモノナルコトハ幾多ノ場合幾多ノ証左ニヨリ推知スルニ難カラザルコトト思ヒマス、而シテ泰西ニ於ケル二三ノ統計ヲ見レバ實ニ左ノ如キモノガアリマス、即チ West, Baigel, Hewitt, Dupuytren, Moore, Madden, Engelmann, Köhrig, Gusserow. 氏等ノ合計ヨリ成ル九百

五十三例(述者ニ云試ニ合算スルニ九百十九例トナルモ今書契ニ從フ)ニ於テハ二十年以下十五例ニシテ十年十四年十六年十七年各一例、十八年三例、十九年八例ヲ有シ、次テ二十年代百五十六、三十年代三百五十七、四十年代三百三十八、五十年代三十六、六十年代十二、七十年以上五例ヲ示シマス、又 Schröder 氏ハ其七百九十八例ニ於テ十九年二例〇、二五%二十年代五十八例七、二六%三十年代二百二十九例二十八、六九%四十年代四百七例五十一、〇〇%五十年代九十四例十一、七七%六十年代八例一、〇〇%ヲ示シ、Winkel 氏ノ五百二十七例ハ二十年以下九、二十年代九十八、三十年代百八十、四十年代同シク百八十、五十年代五十二、六十年代六、七十年以上二例ヲ示シマス、

10#	1	West—Gusserow	Schröder.	Winkel.	Ogawa.
14	1				
16	1				
17	1				

18	3			
19	8	2	9(20以下)	37.
20—30	156	58	98	
30—40	357	229	180	36
40—50	338	407	180	24
50—60	36	94	52	2
60—70	12	8	6	
70以上	5		2	
	953(919)	798	527	99

即チ West 氏等ニ據レバ、三十年代最多クシテ四十年代之ニ次キ、Schroden 氏ニ據レバ、四十年代最多クシテ三十年代之ニ次クニ關ラズ、Winkel 氏ノ例ハ其偶々同一ナルコトヲ表ハシ、我等ノ九十九例ハ以上諸氏ニ反シ二十年代最多ク三十年代之ニ次キ四十年代更ニ之ニ次クコトヲ顯ハシマスガ、之ハ本表ニ於テハ泰西諸氏ニ從ヒ其二十歳ニ於ケル三例ヲ二十年代ニ加入セルヲ以テ、却テ二十年代ニ於テ最多數トナツタモノデ、今此三例ヲ除クトキハ三十年代最多ク二十年代之ニ次キ四十年代更ニ之ニ次クモノトナリマス、即チ三十年代ニ於テ亦最多數ヲ見ルコト、ナリマス、ソコデ吾等カ例ニ一步ヲ讓リテ申シマスレバ東西共ニ三十年代乃至五十年代ニ於テ最多數ニシテ二十年以前並ニ六十年以後ニ於テ甚タ罕ナルコトトナリマス、併シ乍ラ私共ハ泰西ハイザ知ラズ單ニ吾等ガ此報告ニ於キマシテハ先程申上ケタル如ク二十五歳ヲ基點トシテ之ヨリ毎十年ニ亘リテ區別シ觀ルヲ本邦婦人ニ於ケル發病年齡統計上最適切ナル算法ト信シマス、故ニ前掲ノ如ク二十五乃至四十五歳最大多數ニシテ二十四歳以下之ニ次キ四十六歳以上ハ最少數ナリト云フヲ妥當ナリト思ヒマス、

Winkel氏ハ尙左ノ如キコトヲ告ケテ居リマス、普通二十年代ハ十八%ニシテ三十年代二十四、三%デアアル、患婦ガ最初其病徴ヲ感覺スルハ約四分ノ一ハ既ニ二十年代ニ在リテ其平均年齢ハ三十三歳デアアル、之ハ子宮筋腫ヲ有スル二十七人ノ初産婦ニ於テモ同様ナル平均數ヲ現スコトヲ見タルガ、二回乃至五回經産ノ筋腫患婦ニ於テハ平均三十四歳ヨリ三十六歳ノ間ニ在ルコトヲ見タリト、此三十三歳ナル全平均年齢ハ吾等ガ總數九十九人ノ平均年齢三十四歳強ニ比シテ相去ル遠カラザルト共ニ、吾等ガ不妊者平均三十二歳強、初産婦二十七歳弱、經産婦三十五歳強ニ比シテ彼ガ初産婦及經産婦ニ就テノ平均年齢ハ其差余リ大ナラザルコトト思ハレマス、其中唯吾等ノ例ニ於テハ經産婦ヨリモ却テ初産婦ニ於テ其平均年齢ノヨリ高年ナルヲ見ルヲ異レリト致シマス、

今 West 等諸氏(九百十九例)及 Winkel 氏ノ例ニ就テ其%數ヲ算出シ、添フルニ Schmacher 氏ノ%數ヲ以テシ互ニ相對比スレム

	West-Gusserow	Schröder	Winkel	Schmacher	Ogawa
20 <sup>#</sup> 以上	1.6%	0.25%	1.7%	0.5%	
20—30	16.9%	7.26%	18.5%	9.5%	37.4%
30—40	38.8%	28.69%	34.1%	29.6%	36.3%
40—50	36.7%	51.00%	34.1%	44.8%	24.2%
50—60	3.9%	11.77%	9.8%	13.2%	2.2%
60—70	1.3%	1.00%	1.1%	2.4%	
70以上	0.5%		0.3%		

デアリマス、

次ニ癩腫ニ就テハ、Lever, Kiwisch, Chiani, Samzoni, Säxinger (Klinik von Seyfert), Tinner, Hangh, Blan, Dittirich, Lotlar Meyer, Lebert, Giotter, Beigel, Schröder, Schatz, Winkel, Champneys, Gusserow 氏等ノ合計三千二百八十五例(述者ニ試ニ合算スルニ三千四百四十四例トナルモ、今亦書契ニ從フ)ニ於テハ十七年一例、十九年一例、二十年代百十四例、三十年代七百七十例、四十年代千六百六十九例、五十年代八百五十六例、六十年代三百四十例、七十年以上百九十三例ニテ、Gusserow 氏ハ二千二百六十五例中二十年以下二、二十年代八十一、三十年代四百七十六、四十年代七百七十一、五十年代六百、六十年代二百五十八、七十年以上八十二例ヲ報シ、Schröder 氏ハ八百六十例中二十年代二十四、三十年代二百二十九、四十年代三百十三、五十年代二百十二、六十年代七十二、七十年以上百八例ヲ報シ、Hangh, Blan, 及 Dittirich 氏ハ其屍體解剖記録上四百九十二例ニ就テ二十年代二十二、三十年代百七、四十年代百三十三、五十年代百五十三、六十年代五十三、七十年以上二十四例ナルコトヲ報告シテ居リマス、

	Leber— Gusserow.	Gusserow.	Schröder.	Hangh— Dittirich.	Ogawa
17 <sup>年</sup>	1 (Glatter)				
19	1 (Beigel)	2 (20年以下)			
20—30	114	81	24	22	13
30—40	770	476	229	107	28
40—50	1169	771	313	133	32
50—60	856	600	212	153	23
60—70	340	258	72	53	4

70YLE 193 82 108 24

3444 2265 860 492 100

即チ Lever 氏等及 Gussnerow 氏ニ據レバ四十年代最多クシテ五十年代之ニ次ギ Schröder 及本報告ニ據レバ四十年代ニ次クニ三十年代最多キコトヲ示シ、Haugb 氏等ニ據レバ五十年代最多クシテ四十年代之ニ次グコトヲ表ハシマス、尤モ Haugb 氏等ノ比較的高齡ニ於テ多數ナルヲ顯スハ是レ吾等臨床家ヨリモ病理解剖家ノ眼ニ觸ル、コトノ一ニ晚キニ因ル所以デアリマス、而シテ以上諸家ノ報告ハ皆四十年乃至六十年ニ於テ最多數ナルコトヲ顯ハシ其二十年以前殊ニ春機發動期ニ於テハ殆ント罕ナルコトヲ顯シテ居リマス、故ニ子宮癌腫ハ五十歳前後ニ於テ最屢之ニ遭遇スト云フベキデアリマス、Winkel 氏ハ本病ハ高齡者ニ多クシテ月經閉止後初ノ五ケ年間ニ最屢發生スト云ハレタルガ、マタ頗ル傾聽スベキ事ト思ヒマス、

本邦ニ於テハ柳氏ノ報告ハ六十三人ノ平均年齢四十一歳強ナルコトヲ云ヒ、山田氏ハ四十人ニ就テ四十五歳強ナリト云ハレシガ、吾等ノ報告ハ前申上ケタル如ク百人ノ平均年齢四十三歳強ナルコトヲ示シ兩者ノ中間ニ在ルコトヲ顯シマス、而シテ私共ハ亦前述ノ如ク三十五乃至五十五歳最大多數ニシテ三十四歳以前之ニ次キ五十六歳以後ハ最少數ナリト云フ算法ヲ以テ最其當ヲ得タリト思ヒマス、

此ノ如ク子宮癌腫ハ三十五歳乃至五十五歳ニ最多ク子宮筋腫ハ二十五歳乃至四十五歳ニ最多ク、其間約十年ノ差アルヲ見ルハ癌腫ノ筋腫ニ比シテイヨク高齡ニ於テ來ルモノナルコトヲ証シテ明ナルコト、思ヒマス、尤モ子宮体部ノ癌腫ハ膾部、頸部ノ癌腫ヨリモ高年ニ於テ發生シ通常五十年代以上ニ於テ多ク見ルト云フコトデアリマスガ、吾等ハ体部ノ癌腫ハ其實驗ニ乏シキノミナラズ本報告ノ癌腫ハ單ニ膾部ニ發生シタルモノニ止ルヲ以テ今他ニ論及

致シマセヌ、

素ヨリ Gutter 氏ノ十七歳ノ處女ニ於ケル一例 Peissel 氏ノ十九歳ノ處女ニ於ケル一例、同シク Flanker 氏ノ十九歳ノ一例、Schanta 氏ノ十七歳ノ一例ノ如キハ例外ト云フベキモノデ、殊ニ Ganghofel 氏ノ八才ノ童女ガ頸管腺ヨリ發生セル髓様癌ニ罹リシコトヲ Chiari 氏ニヨリ檢索セラレタリトノ報告ノ如キハ最例外ニ屬スベキ事ト云ハチバナリマセヌ、佐藤勤也氏ハ十九年六ヶ月ノ一婦人ニ於テ著明ナル守宮腺部癌腫ヲ實驗セラレタリト云フコトデアルガ、我ガ小川教授モ赴任后亦曾テ二十歳ノ婦人ニ於テ同シク腺部癌腫ニ罹レル者ヲ親シク實驗セラレタト云フコトデアリマス、

尤モ凡テ人ナル者ハ年長スルニ從ヒ漸次減少スル者ニシテ、高年ニ及ベバ患婦ノ少キ丈其レ丈亦人モ少キ譯デアル故ニ其發病平均年齢ノ如キモ或ハ尙高年ナルヤモ知ル可ラス、是亦一考スベキコトデアラフト存シマス、

#### 第八 初産ト終産間ノ年限

兩病患者ノ既産婦ニ就テ、其最初ノ分娩ト最後ノ分娩トノ間ハ幾年ナリシカ即各幾年間其生殖的作用ヲ營爲セシカニ就テ調べタルモノデアリマス、

筋腫ニテハ總數五十二人ノ平均年限ハ七年弱ニシテ最早者一年最遲者二十一年、之ガ市町村別ハ市十七人七年強、町十人五年強、村二十五人七年ニシテ、之ヲ初産ト經産ニ配スレバ初産婦十八人平均一年、經産婦三十四人十年弱トナリ、又癌腫ニテハ總數九十人ニテ十二年弱最早一年最遲二十五年ニシテ、之ガ市町村別ハ市二十六人九年強、町二十四人十二年強、村四十人十三年ナルモ、初産ト經産トニテハ初産婦八人平均一年、經産婦八十二人十三年弱トナリマス、

然レモ此中ニ就テ年數一年ナル者筋腫ニ於テ十八人、癌腫ニ於テ八人合計二十六人ノ者ヲ見マスルガ是レ初産ニ止ル者ノ然ラシムル所デアリマス、此等ノ初産婦ニ於テハ其第一回分娩即最終ノ分娩デアリマス故ニ平均一年ナル奇異ノ觀ヲ呈シタノデ、此初産ヲ除キ經産婦ノミニ就テ之ヲ調べタル方寧ロ本項目ニ準スル適當ノ事カト思ヒマス、即チ筋腫ニテハ分娩二回以上ニ及ヒタル者三十四人其平均年限十年弱ニシテ最早三年最遲二十一年、之カ市町村別ハ市九人十三年弱町五人九年強村二十人八年半ナルモ、癌腫ニテハ八十二人ノ平均十三年弱最早二年最遲二十五年、之ガ市町村別ハ市二十二人十一年弱、町二十四人十二年強、村三十六人十四年強トナリマス、

此ノ如ク兩病ニ於ケル平均年限ノ差ハ總數ニ就テ觀レバ七年弱ト十二年弱ナル故其差五年、單ニ經産婦ノミニ就テ觀レバ十年弱ト十三年弱ナル故其差三年トナリマスガ、若シ今此五年ヲ措キ單ニ其差三年ヲ採ルモ癌腫患者ニ於テハ筋腫患者ヨリモ發病前既ニヨリ久シク其生理的機能タル生殖作用ヲ營ミ得タルモノナルコトヲ推知スルニ足ルト思ヒマス、

尙兩病ニ於ケル經産婦ニ就テ其初産終産間年限ノ各十年ニ亘ル%數ヲ對比スレバ左ノ通りデアリマス、

	筋腫	癌腫
2年—10年	19 = 55.8%	30 = 36.5%
11—20	13 = 38.0%	40 = 50.0%
21—30	2 = 5.8%	11 = 13.4%

即チ其初産終産間ノ年限ハ筋腫ニ於テハ二乃至十年ノ者最多ク實ニ十一乃至二十年、二十一乃至三十年ノ合計ヨリモヨリ多數ニシテ其間マタ遞減ノ傾アルニ拘ラズ、癌腫ニテハ十一乃至二十年ノ者最多クシテ二乃至十年並ニ二十

一乃至三十年ノモノ、合計數ハ畧ホ之ニ等シク而シテ其二十一乃至三十年ノ者ハ最僅少ナルヲ見マス、此ノ如ク二乃至十年ニ於テ筋腫多ク十一乃至二十年ニ於テ癩腫多キ所以ノモノハ一ニ又癩腫患者ノ長ク生殖力ヲ保チシニ結構スト思ヒマス、

第九 終産ト發病間ノ年限

コレモ亦兩病患者中ノ既産婦ノミニ就テ、其分娩ノ一回ニ止リタルニセヨ又ハ二回三回乃至十餘回ニ至リ止リタルニセヨ、苟クモ最後ノ分娩ト認メタル時ヨリ各自發病初期症狀ヲ自覺(或ハ他覺的)セシ時ニ至ルマデ其間果シテ幾年ヲ經過セシ乎ト云フコトヲ調ベタモノデアリマス、

筋腫ニ於テハ總數四十八人(既産婦五十二例中ヨリ其終産前既ニ或症狀ヲ覺エタル者四例即チ「終産六年前ニ於テ腫瘍ヲ自覺セル者、四年前ヨリトナリタルモノニシテ此四例ハ皆其經産婦ニ屬スルモノ也」)ノ平均年限十二年弱ニシテ最早者一年最遲者三十年、之カ市町村別ハ市十七人十一年強、町九人十四年弱、村二十二人十一年半ニシテ、若シ初産ト經産トニ配スレバ初産婦十八人十六年半最早三年最遲三十

年、經産婦三十人九年強最早一年最遲二十三年デアリマスガ、癩腫ニテハ總數八十六人(既産婦九十例中ヨリ其終産前既ニ或年前ニ於ケル妊娠時ヨリ出血ヲ見タル者、三年前ヨリ著明ノ帶下アリタル者、二年前ヨリ同シク帶下アリタル者ニ「テ除キタル爲八十六例トナリタルモノニシテ此四例ハ亦其經産婦ニ屬スルモノ也」)ノ平均年限十四年弱ニシテ最早者一年最遲三十七年、之カ市町村別ハ市二十六人十五年強、町二十一人十三年弱、村三十九人十四年弱ニシテ、更ニ初産ト經産トニテハ初産八人二十三年強、最早六年最遲三十五年、經産七十八人十三年弱最早一年最遲三十七年デアリ

マス、

斯様ニ兩病ニ於ケル總數平均年限ハ筋腫ニテハ十二年弱癩腫ニテハ十四年弱ナルヲ以テ其差癩腫ニテハ二年丈長ク加之其年限ノ最短キモノハ各一年ニシテ兩者同一ナルモ最長キモノハ癩腫ニテハ三十七年ナルヲ以テ筋腫ノ三十年

ナルニ比シテ亦長クアリマス、且又筋腫ニ於テハ初産婦ニテハ十六年半ナルニヨリ癌腫ノ二十三年強ニ比シテ七年間短ク、經産婦ニテハ九年強ナルニヨリ癌腫ノ十三年弱ニ比シテ約四年間短クアリマス、再言スレバ筋腫ニテハ總數ニ於テ二年、最遲者ニ於テ七年、初産婦ニ於テ七年、經産婦ニ於テ四年等凡テ癌腫ヨリモ其終産ヨリ發病ニ至ル年限ハ悉クヨリ短早ナルヲ見マス、加之其年限ノ三十年以上ニ至ル者七例ノ多キニ及ヒ即チ三十年一例、三十一年二例、三十五年一例、ルニ過キザルモ、癌腫ニテハ三十年以上ニ至ル者七例ノ多キニ及ヒ即チ三十年一例、三十一年二例、三十五年一例、三十七年三例ヲ見ル次第デアリマス、是レ一ニ終産後尙癌腫ノ久シキ間發生セザルヲ示スモノニシテ、取りモ直サズ癌腫ノ筋腫ヨリモ高齡ニ於テ來ルモノタルコトヲ証スル所以デアラフト信シマス、

其年限ノ各十年ニ亘ル%數ハ今市町村別並ニ初産婦ト經産婦トニ分テハ左ノ通デアリマス、先ツ

年 代	筋 腫 48	癌 腫 86
1年—10年	21 = 43.7%	34 = 39.5%
11—20	19 = 39.5%	31 = 36.0%
21—30	8 = 16.6%	15 = 17.4%
31—40		6 = 6.9%

次ニ初産婦ト經産婦トニ就テハ

筋 腫		癌 腫	
初産婦 18	經産婦 30	初産婦 8	經産婦 78
1年—10年 4 = 8.3%	17 = 35.4%	1 = 1.1%	33 = 38.3%

11-20	8 = 16.6%	11 = 22.9%	2 = 2.3%	29 = 33.7%
21-30	6 = 12.5%	9 = 4.0%	2 = 2.3%	13 = 15.1%
31-40			3 = 3.4%	3 = 3.4%

デアリマス、

而シテ両病患婦ニ於ケル發病年齡ハ先刻發病年齡條下ニ於テ申上ケシ如ク其初産婦ト經産婦トニ就テ殆ンド差異ナ  
 キニ係ラス、終産ト發病間ノ年限ハ初産婦ト經産婦トニ就テハ稍異ル所アリ、即チ両病共初産婦ハ經産婦ヨリモ其  
 間ノ年限短クシテ、經産婦ハ多クノ生理的生殖任務ヲ遂ケタルト同時ニ從テ亦終産後比較的長ク生理的健康狀態ニ  
 在リタリト云フベシデアリマス、尤モ調査例ノ少數ナル爲ニ斯ル偶然ノ結果ヲ生シタルモノカ否保シ難キヲ以テ一  
 ニ他日ノ調査ニ照サント思ヒマス、

	筋腫	癌腫
初産婦	16 <sup>中</sup> 半	9 <sup>中</sup> 強
終産婦	23 <sup>強</sup>	13 <sup>弱</sup>

第十 發病初期自覺的(又他覺的)症候

第十圖ニ於テ示ス如ク其初期症候ハ多種多樣ノ觀ヲ呈シマスルガ今最多キモノヲ擧クレバ筋腫ニテハ腫瘤三十二、  
 疼痛二十、帶下疼痛十一、出血十等ニシテ癌腫ニテハ出血三十三、帶下十八、帶下疼痛十五、疼痛十等ノ順序デア  
 リマス、其中筋腫ニテハ腫瘤三十二ニ於テ他覺的ノモノ五例ヲ有シ一例ハ按摩ニヨリ四例ハ醫士診察ノ際偶然發見  
 セラレタルモノニシテ、疼痛二十例ノ中二例ハ毎月經時殊ニ劇痛ヲ覺エタル者帶下疼痛十一ノ中一例ハマタ經血時

ニ於テ、尙出血十ノ中一例ハ流産後ヨリ持長シタルモノデアリマス、

尙其他ノ症候ト雖一々發病初期ニ於ケルモノヲ盡シタト云フ譯デハナク其完カラザルコトハ素ヨリノ次第ト存ジマスルガ今ハ暫ク患者經過録ニ從テ其訴ヘタル症狀ノ主要ナルモノヨリ初期ニ於テ發シタリト認ムベキモノヲ列チタマデ、アリマス、

而シテ茲ニ聊カ注意ヲ要スベキコト、思ヒマスルハ筋腫五十二例中四例、癌腫九十例中四例、都合八例ニ於テ其終産以前ニ於テ既ニ本病ノ初期症候(?)ヲ顯ハシテ居ルコトデアリマス、若シ此等ノ症候ヲシテ果シテ本病發生ノ初期症候ト認メ得ルナラバ、此各四例ハ其後會テ妊娠ヲ併發セシコトヲ顯ハスモノデアリマス、此最終的妊娠合併即チ子宮筋腫或ハ癌腫ニ於テ妊娠ヲ併發シ完全ニ又ハ危險ヲ免レテ分娩作用ヲ遂ケタル例ハ東西共ニ多少報告セラレテアリマスルガ此等ハ皆異例ニ屬スルモノト認メテ能イノデアリマス、

Hofmeier氏ノ如キハ筋腫ト妊娠トノ關係ヲ論シテ子宮筋腫ハ不妊ト關係ナキノミナラズ月經持續期延長スルカ爲ニ却テ受胎機轉行ハレ易ク、從テ高年ノ未産婦筋腫ニ罹リテ後妊娠スルコト屢々アリト云ツテ居リマスルガ我等ハOlshausen, Pfannenstiel Strassmann 諸氏ノ說ヲ取ルノミナラズ Schröder氏ニ從ヒ又我邦ニテハ濱田博士等ガカツテ日本婦人科學會ニ於テ申サレタルカ如ク、其長ク妊娠セザルハ筋腫ヲ以テノ故ニシテ、假令筋腫ハ不妊ノ近因ナラザルニセヨ確ニ其或一因タルベク、偶々妊娠スル如キハ實ニ偶然ノ出來事ニシテ其併發ハ異例ニ過キスト云フ說ヲ至極穩當ナリト信シマス、

我等ハ尙両病ト遺傳ノ關係、發病後死ニ歸スル年限並ニ月經閉止期トノ關係ニ等就テ調アル所アラントセシモ統計上ニ上ボス丈ノ確ナル材料ニ乏シキヲ憾ト致シマス、

彼ノ初經ト發病ノ年限、結婚ト發病間ノ年限、初産ト發病間ノ年限、並ニ初經ト初産、初經ト終産間トノ年限及結婚ト初産、結婚ト終産間トノ年限ノ如キハ別表ニ付テ御一覽下サツタナラバ之ヨリ充分御推知ガ出來ルコトト思ヒマス故ニ之カ統計ハ別ニ致シマセヌ、唯患者ノ死亡年齡ニ就テ一言シマスレバ、筋腫ニ於テハ直接本病ノ爲死ニ陥ルコト少キト癰腫ニ於テハ其死ニ至ルマデ診療ニ預ル者殆ント皆無ナルトニヨリ頗ル明了ナラザルモ而モ癰腫ニ於テハ我等ガ日常ノ實驗ニ徴シマスレバ發病初期症候後一年内外ニ死亡スルモノ最多ク二年乃至三年以上ニ及フモノハ罕ナルカノ様ニ思ハレマス、固ヨリ早期診斷ノ下早期手術ヲ施シタナラバ或ハ尙餘命ヲ保ツコトヲ得ルナランモ、悲クモ我病院ニ來ル者ノ如キハ業ニ既ニ病膏盲ニ入りタルモノ多ク、ヨシ一時的ニセヨ切除燒灼法スラ施シ難キ高期ニ達セルモノ寡ラザルハ甚タ遺憾ノ極デアリマス、尤モ日本ニ於テハ人智開ケタリト雖凡テノ方面ニ於テ未タ普カラズ殊ニ當地方ノ如キ一汎婦人ニ於テハ因循ニシテ羞耻心ニ富ミ其生殖的疾患ハ可及的之ヲ秘スルノ傾ガアリマス、加之一汎開業ノ御方々ニ於テモ比較的ニ婦人科的思想ヲ等閑ニ附セラル、傾カアリマシテ、タトヒ病苦ノ餘リ此等ノ婦人ガ勇ヲ鼓シテ醫ノ門ヲ敲クコトアルモ多クハ只外診ニノミ止メ唯一ノ内診スラナサラサル様ニ聞キ及ヒマス、之カ爲ニ其疾病ヤ從テ確診セラレ難ク、其中病機ハ進ム自覺症ハ益重クナル終ニ致方ナク病院ナドへ來ルト云フ次第デアリマス、就テハ皆サンニ於キマシテハ斯ル病人ニ御出遇ニナツタ際ハ可成的早ク之ニ勸メテ婦人科専門ノ開業ノ方、又ハ病院等へ御送ニナリ、此等ノ同情ヲ表スベキ感ナル者ヲシテ一刻モ長ク其天命ヲ全フセシメラレシコト切望ノ至リニ堪エザル所デアリマス、

之ニテ大畧述へ尽シタル様ニ思ヒマスルガ、終ニ臨ンデ私ハ甚タクドイ様ニ存シマスルモ聊カ以上諸條項ニ就テ再ヒ申上度ト思ヒマス、斯ル一小報告ニ於テ結論ナドハ素ヨリ私共ノ期スル所デアアリマセヌガ今備忘ニモトテ唯事

實上ニ於ケル自ラ扣フル所ノモノヲ探リテ此報告ヲ了ラウト思ヒマス、願クハ其心ヲ以テ御聞取アランコトヲ希ヒマス、

一 生計上ノ状態ハ多少両病ニ關係アルカ如キモ上級社會ニ筋腫多ク下級社會ニ癌腫寡ラズトハ臨床上比較的ノ實驗ナリ

二 両病ト初經年齡トノ關係ハ筋腫ニテハ平均十六歲強癌腫ニテハ十六歲弱ニシテ特殊ノ差異ナク又本邦婦人初經平均年齡ト比シテ異ル所少キカ如シ

三 両病ト結婚年齡トノ關係ハ筋腫ニテハ平均十八歲強癌腫ニテハ十八歲弱ニシテ其間亦徑庭アルヲ見ズ即チ結婚年齡ノ遲早ト両病トハ何等ノ連續ナシ

四 未婚ト既婚トノ關係ハ両病共ニ未婚婦ヨリモ既婚婦ニ於テ多ク殊ニ癌腫ハ既婚婦ニ於テ多ク顯ル、カ如シ是レ諸報告ノ一致スル所ナリ

五 両病ト初產年齡トノ關係ハ筋腫ニテハ平均二十一歲強癌腫ニテハ二十歲強ニシテ之ヲ初產ト經產ニ分ツモ殆ント同様ナリ

六 不妊ト既妊トハ両病ニ緊要ナル關係ヲ有シ東西ノ諸報告ヲ對照スルニ筋腫ニテハ其五十%以上ハ既妊ナルモ癌腫ニテハ不妊僅ニ十%以下ナリ

七 両病ト終產年齡トノ關係ハ平均筋腫二十六歲強癌腫三十一歲強ナルモ經產婦ノミニ就テハ筋腫二十九歲弱癌腫三十二歲強ニシテ筋腫ハ癌腫ヨリモ三年乃至五年高齢ニ於テ其最終ノ分娩ヲ營ムモノ、如ク從テ筋腫ハ癌腫ニ比シテ早期ニ其生殖力ノ障礙ヲ來スカ如シ

八 兩病ト流早産トノ關係ハ本報告ニテハ詳シク之ヲ窺フニ足ラズト雖之カ爲ニ妊娠ノ中絶ヲ來スコトアルハ確實ナリ

九 筋腫ニテハ分娩回数癌腫ニ比シテ遙ニ少シ而シテ其每回数ニ就テハ筋腫ニ於テハ第一回分娩ノ者最多クシテ二、三、四等漸次遞減ノ傾アルモ癌腫ニテハ第三回並ニ第四回最多數ニシテ之ヨリ前後ニ各遞減スルノ傾アリ即チ Winkel 氏ノ報告ニ一致スルカ如シ

十 一般筋腫患婦ノ舉兒數ハ一般癌腫患婦ノ舉兒數ニ比シテ約三分ノ一ニ過キス即チ癌腫ハ經産婦殊ニ多産婦ニ於テ多ク顯ル、カ如シ

十一 一母平均舉兒數ハ本報告ニ於テハ既産婦全体ニ配スレバ筋腫二、五九兒癌腫四、三五兒ナルモ諸家ノ報告ヲ綜合スレハ筋腫二、五七兒癌腫五、二八兒ナリ今東西ニ於ケル通常婦人分娩平均數ヲ四、一五兒ト假定スレハ筋腫ニテハ平均舉兒數之ニ及ハザルモ癌腫ハ之レヲ超過ス而シテ諸報告ニヨレハ其平均舉兒數ハ筋腫ニテハ一、五—三、五兒ノ間ニアルモ癌腫ニテハ三、五—七兒ノ間ニアルカ如シ

十二 兩病ト發病平均年齢トノ關係ハ筋腫ニテハ平均三十四歳強ナルモ癌腫ニテハ四十三歳強ニシテ其間約十年ノ差アリ而シテ筋腫ノ三十四歳強ハ Winkel 氏ノ二十三歳ニ近ク癌腫ノ四十三歳強ハ 榑氏ノ四十一歳強山田氏ノ四十五歳強ノ間ニ在リ乃チ癌腫ハ筋腫ニ比シテ高齢ニ於テ來ルモノトス

十三 此發病平均年齢ハ不妊婦ニテハ筋腫卅二歳強癌腫四十一歳強初産婦ニテハ筋腫卅七歳弱筋腫四十三歳強ナリ  
十四 發病平均年齢ハ二十年三十年等ノ如ク每十年代ニ從テ之ヲ區別スルヨリモ寧ロ二十五歳ヲ基點トシテ之ヨリ每十年ニ亘リ區別スルコト却テ適切ナル算法ナルカ如シ即チ筋腫ハ二十五—四十五歳ノ間ニ於テ最屢來リ

癌腫ハ三十五—五十五歳ノ間ニ於テ最屢來ルモノナリ

十五 兩病ニ於ケル初産終産間ノ年限ハ既産婦ニ就テハ平均筋腫七年弱癌腫十二年弱ナルモ經産婦ノミニテハ筋腫十年弱癌腫十三年弱ニシテ兩病ノ間ニハ三年乃至五年ノ差アリ即チ癌腫患婦ハ比較的長ク妊孕カラ保ツモノトス

十六 經産婦ニ就テハ其初産終産間ノ年限筋腫ニテハ二—十年ニ亘ル者最多ク癌腫ニテハ十一—二十年ニ亘ル者最多シ

十七 兩病ニ於ケル終産ト發病間ノ年限ハ總數ニ就テハ平均筋腫十二年弱癌腫十四年弱ナルモ初産婦ニ於テハ筋腫十六年半癌腫二十三歳強ニシテ經産ニテハ筋九年強癌腫十三年弱ナリ即チ兩病ノ間ニハ二年七年四年等各差異アリテ癌腫患婦ハ終産後比較的長ク尙健康狀態ニ在ルモノナリ

十八 兩病ニ於テ初産婦ニ於ケル分娩發病間ノ年限ハ經産婦ニ於ケル終産發病間ノ年限ニ比シテ比較的短シ即チ經産婦ニ比シテ多クノ生殖的任務ヲ竭シタルト共ニ終産後尙長ク健康狀態ニアルカ如シ

十九 終産發病間ノ年限上兩病既産婦ハ每十年ニ從ヒ遞次減少スルノ狀アリ

二十 發病初期自覺的(又他覺的)症候ハ稍多端ナルモ其多ク顯ル、症候ハ筋腫ニテハ腫瘤、疼痛、帶下疼痛、出血、癌腫ニテハ出血、帶下、帶下疼痛、疼痛等ノ順序ナルカ如シ

二十一 筋腫ト妊娠トノ關係ハ不妊ハ筋腫ノ元因ニ非スシテ筋腫ハ反テ不妊ノ基ヲナスモノ、如シ又癌腫ニ就テハ其元因今日尙不明ナルモ既ニ婚嫁セル經産婦殊ニ多産婦ニ於テ屢多ク顯ル、ヲ以テ見レハ産科的刺戟ナルモノハ其不明ノ元因ヲシテ多少占據シ易カラシムル所アルカ如シ

VII. A

發 病 年 齡 表

子 宮 筋 腫

(百例中卵巢腫瘍ト合併セル一例ヲ除ク)

年齢	市	町	村	不妊	初産	経産	合計
20	2	1		2		1	3
21	2			1	1		2
22	2	1		2		1	3
23	3		1	4			4
24		1	2	2		1	3
25	1	1	3	4		1	5
26	1	1	1	2		1	3
27	2	1	1	3	1		4
28	1	2	2	1	1	3	5
29	1		1	1	1		2
30			3	1		2	3
31	1	1				2	2
32			1			1	1
33	2		1	3			3
34		1	1	1		1	2
35	4		2	2		4	6
36	3	3		1	2	3	6
37		1	3	2		2	4
38	3		3	3	1	2	6
39		1		1			1
40	4		1	2	3		5
41	3	2	3	2	2	4	8
42		2	2	3	1		4
43			2			2	2
44		1	1	1		1	2
45	1		1	1	1		2
46	1					1	1
47	2	1	1	1		3	4
48		1				1	1
51			2	1	1		2
合計	39	22	38	47	18	34	99

總數 99人 平均年齢 = 34歳強 (20才—51才)	
市	39 = 33弱(20—47)
町	22 = 34強(20—48)
村	38 = 35強(23—51)

不妊	47(47.4%) = 32強(20—51)
初産	18(18.1%) = 37弱(21—51)
経産	34(34.3%) = 35強(20—47)

20—30	37 = 37.4%
30—40	36 = 36.3%
40—50	24 = 24.2%
50—60	2 = 2.0%

25以下	20 = 20.2%
26—35	31 = 31.3%
36—45	40 = 40.4%
45以上	8 = 8.0%

24以下	15 = 15.1%
25—35	36 = 36.6%
36—45	40 = 40.4%
46以上	8 = 8.0%
} 76 = 76.7%	

VII. B

發 病 年 齡 表

子 宮 癌 腫							
年齡	居住地			不妊	初產	經產	合計
	市	町	村				
23		1	1	1			1
25	1				1		1
26	1		1			2	2
27		2				2	2
28	1	1	1			3	3
29	3			1		2	3
30			1			1	1
31		1	2			3	3
32		1	1			2	2
33	2	1				3	3
35	1	1	1		1	2	3
36			2	1		1	2
37		1	2			3	3
38	1	3	2	2		4	6
39	3		1	1	1	2	4
40	1		1	1	1		2
41			2			2	2
42		4				4	4
43	2	2	2			6	6
44	2		3	1		4	5
45		1	1			2	2
46	3	1			1	3	4
47		1	2			3	3
48			2			2	2
49			1		1		1
50			3			3	3
51			1			1	1
52	1		6			7	7
53	1	2	1		1	3	4
54	1					1	1
55	2	1	1	1		3	4
56			1			1	1
57		1				1	1
58	2		1			3	3
59	1				1		1
64			1			1	1
67	1			1			1
68		1	1			2	2
合計	30	26	44	10	8	82	100

  

總數100人平均年齡=43歲強 (23-68)	
市	30=43.弱(25-67)
町	26=41.弱(23-68)
村	44=45.弱(26-68)
不妊	10(10%)=41弱(23-67)
初產	8(8%)=43強(25-59)
經產	82(82%)=43強(26-68)
20-30	31=13.%
30-40	28=28.%
40-50	32=32.%
50-60	23=23.%
60-70	4=4.%
25以下	2=2.%
26-35	22=22.%
36-45	36=36.%
46-55	30=30.%
56-65	7=7.%
66以上	3=3.%
25以下	2=2%
26-34	16=16%
35-45	42=42%
46-55	30=30%
56-65	7=7%
66以上	3=3%

V III

初産ト終産間ノ年限表

子宮筋腫					子宮癌腫				
年數	市	町	村	合計	年數	市	町	村	合計
1	8	5	5	18 } 18	1	4		4	8
3	1	1	4	6 } 19=55.8%	2	1			1
5	1		5	6	3	1	3	1	5
6			1	1	4		1		1
7			1	1	5	1		1	2
8	1	1	2	4	6	1	1		2
9		1		1	7	2		1	3
11	1	1	1	3	8		1	4	5
12	1		2	3	9	4		3	7
13			1	1	10	1	2	1	4
15		1		1	11	3	1	1	5
16	1		1	2	12		4	2	6
19	2		1	3	13	1	2	3	6
21	1		1	2 } 2=5.8%	14	1	2	2	5
合計	17	10	25	52 (34經産)	15	3	1	2	6
總數52=7.年弱(1-21)					16	1	2	2	6
市	17=7.強(1-21)				17	1	1	2	4
町	10=5.強(1-15)				18		1	1	2
村	25=7.(1-21)				19	1		2	3
初産	18=1.年				20		1		1
經産	34=10.弱(3-21)				21		1	4	5
	{ 市 9=13弱(3-21)				22	1		1	2
	{ 町 5=9強(3-15)				23		1	1	2
	{ 村 20=8半(3-21)				24		1		1
					25			1	1
					合計	26	24	40	90(82經産)
					總數90=12.年弱(1-25)				
					市	26=9強(1-22)			
					町	24=12強(3-24)			
					村	40=13(1-25)			
					初産	8=1.年			
					經産	82=13.弱(2-25)			
						{ 市 22=11弱(2-22)			
						{ 町 24=12強(3-24)			
						{ 村 39=14強(3-25)			

(原著及實驗)

IX. A

終産ト發病間ノ年限

子宮筋腫							
年數	市	町	村	合計	年數	初産	經産
1	2		1	3	1		3
2			2	2	2		2
3	3		3	6	3	1	5
4			2	2	4		2
5		2		2	5		2
6			1	1	6		1
7	2			2	7	1	1
8			1	1	8		1
9		1	1	2	9	2	
11	3			3	11	2	1
12		1		1	12		1
13		2	2	4	13	1	3
14	2			2	14	1	1
16	1		1	2	16	1	1
17		1		1	17	1	
18			2	2	18		2
19			2	2	19		2
20		1	1	2	20	2	
21			1	1	21		1
22	3		1	4	22	4	
23	1			1	23		1
29			1	1	29	1	
30		1		1	30	1	
合計	17	9	23	48	合計	18	30

21=43.7%

19=39.5%

8=16.6%

4=8.3%

8=16.6%

6=12.5%

17=35.4%

11=22.9%

2=4.0%

總數 48=12.年弱  
(1-30)  
最短 最長

市	17=11.強(1-23)
町	9=14.弱(5-30)
村	22=11.半(1-29)

初産	18=13.半(3-30)
經産	30=9.強(1-23)

IX .B

終產ト發病間ノ年限

子宮 癌 腫

年數	子 宮				合計	年數	初 產		經 產
	市	町	村	合計			初 產	經 產	
1	2	1	4	7	34 = 39.5%	1	1 = 1.1%	7	33 = 38.3%
2	3	2	5	2		5			
3		2	2	3		2			
4		2	2	4		2			
5	2	2	4	5		4			
6	2	1	1	4		3			
7		3	2	5		5			
8		1	1	2		1			
9	2	1	3	3		3			
10		1	1	1		1			
11		1	2	3	31 = 36.0%	2 = 2.3%	39 = 33.7%		
12		1	3	4				4	
13		2	2	4				4	
14		2	2	4				2	
15	2	2	3	7				7	
16	1	2	3	3				1	
17	3	1	4	4				4	
18	1	1	2	2				2	
19		2	2	2				2	
21	1		1	1				1	
22		1	1	1	15 = 17.4%	2 = 2.3%	13 = 15.1%		
23	1	2	1	4				3	
24		2	2	2				2	
25		1	1	2				2	
26	1	1	2	2				2	
27		1	1	1				1	
29	1		1	1				1	
30	1		1	1				1	
31	1		1	2				6 = 6.9%	3 = 3.4%
35	1		1	1					
37	1	1	1	3	3				
合計	26	21	39	86	合計	8	78		

總數 86 = 14.年弱  
(1 - 37)  
最短 最長

市	26 = 15.強(1-37)
町	21 = 13.弱(1-37)
村	39 = 14.弱(1-37)

初產	8 = 23.強(6-35)
經產	78 = 13.弱(1-37)

(原著及實驗)

X

發病初期自覺的(又他覺的)症候

子 宮 筋 腫	子 宮 癌 腫
帶 下	帶 下
1	18
出 血	出 血
10 (1.流產後)	33
腫 瘤	疼 痛
22 (4醫診, 1按摩)	10
疼 痛	帶下, 出血
20 (2經血時劇痛)	6
帶下, 疼痛	帶下, 疼痛
11 (1經血時)	15
疼痛, 出血	疼痛, 出血
4	6
帶下, 出血	帶下, 疼痛, 出血
1	6
腫瘤, 疼痛	胸背部劇痛, 食道滯滯感
4 (1經血時痛)	1
經血多量, 疼痛	帶下, 胃加答兒性消化不良
1	1
經血時鈍痛, 食欲不振	帶下, 下腹部膨滿
1	1
經血過少	尿意頻數, 排尿時疼痛
1	1
帶下, 下腹痛, 惡寒	倦怠不快感
2	1
下腹痛, 惡寒熱奔	分娩后子宮下垂
1	1
全身違和, 羸瘦, 食欲不振	分娩后出血, 帶下, 下腹不快感
1	1
腹部膨滿, 放尿困難	
1	
帶下, 下腹痛, 歇斯的里症狀	
1	
腰痛, 下肢浮腫	
1	
腫瘤, 下肢痲痺感	
1	
分娩后倦怠, 不快, 冷感	
1	
卵巢腫瘍合併	
1	
檢 數	
2	
健康診斷	
2	